

米国では経済活動は減速しているが、労働市場は堅調

ポイント① 米雇用情勢は堅調さを維持

6月2日に発表された5月の米雇用統計は、非農業部門就業者数が前月比で33.9万人増と、市場予想を大幅に上回り、雇用の堅調さを維持しました。一方、失業率は3.7%へ上昇しました。インフレを左右するとされる平均時給は前年同月比で+4.3%と、前月から伸び率が鈍化し、前日に発表されたADP雇用報告でも賃金上昇率の鈍化が確認されたことと併せ、インフレ圧力が和らぐ結果となりました。

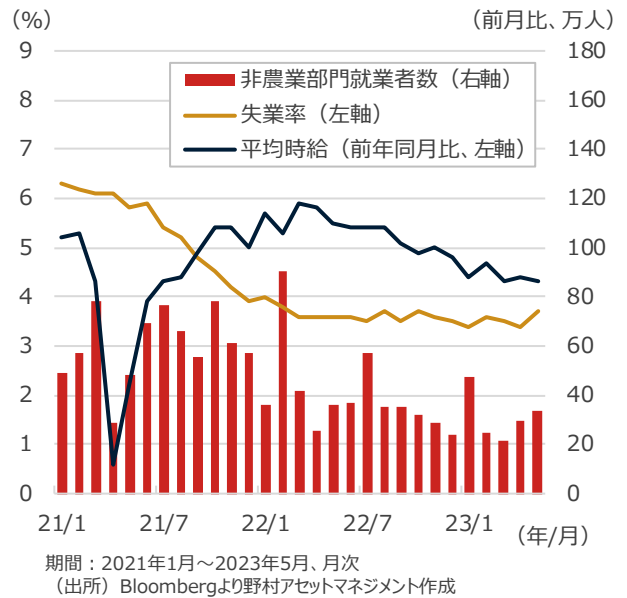
ポイント② 米景況感は製造業が弱含む

4月の米ISM（サプライマネジメント協会）非製造業景況感指数は51.9と好不況の分かれ目の50を上回り、サービス業は依然として堅調を保っていますが、6月1日に発表された5月の米ISM製造業景況感指数は46.9と、7ヵ月連続で好不況の目安とされる50を下回り、製造活動には低調さが見られます。一方、雇用状況を見ると、製造業・サービス業共に50前後で概ね横ばいで推移しており、雇用統計同様に堅調なようです。但し、雇用は遅行指標であることから、弱含んでいる製造業の景況感の影響が年後半に出てくるリスクもあるため、楽観はできません。

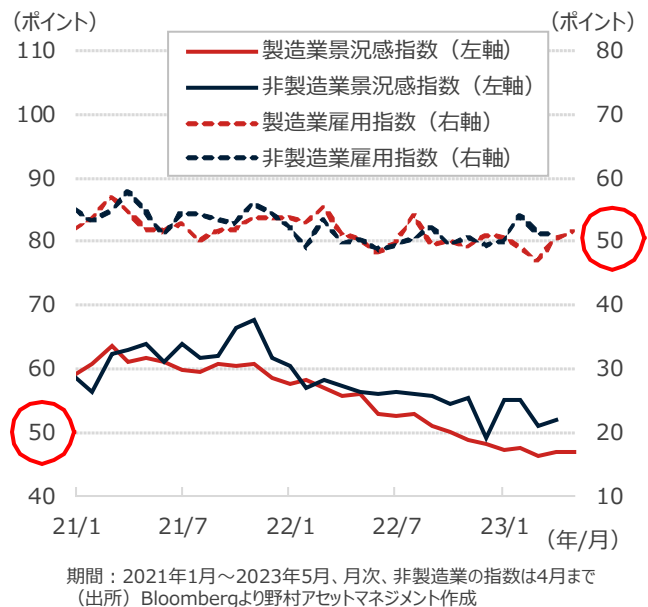
ポイント③ 統計発表後のマーケットの反応

6月2日の米10年国債利回りは、前日比0.10%上昇（債券価格は下落）、米ドル円相場は一時140円台前半まで反発しました。賃金の伸び率が鈍化しているとはいえ高水準で推移しており、FRB（米連邦準備制度理事会）による金融引き締め継続観測が広がったようです。米国株式は、堅調な雇用が確認され、米国債のデフォルトも回避されたことで、米景気の大幅な悪化懸念が後退し、景気敏感株中心に上昇しました。

米非農業部門就業者数・失業率・平均時給の推移



米ISM景況感指数と雇用指数の推移



重要イベント
6月13日 米消費者物価指数（5月）
6月14日 米金融政策発表